

1歳6か月児
健診用

防ぎましょう! 子どもの事故

子どもの事故を防ぐには
周囲の環境をより安全に整えることが大切です。
事故を防ぐためのポイントをまとめてみました。

指導：平成22年度厚生労働科学研究費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
「乳幼児の事故を予防するための戦略研究」に関するフィジビリティ・スタディ
(研究代表者 衛藤隆)
制作：株式会社 放送映画製作所



1 車に乗せるときはチャイルドシートを必ず装着させましょう。

6歳未満の幼児を乗車させるときは、発育に応じたチャイルドシートを使用することが義務づけられています。チャイルドシートは必ず後部座席に装着しましょう。助手席ではエアバッグが作動した場合に重大な事故につながる恐れがあります。チャイルドシートを購入するときは、国の定める安全基準に適合しているか、自動車のシート形状に合っているかを確認しましょう。



2 自転車に乗せるときは必ずヘルメットを着用させましょう。

子どもを自転車の前後に乗せて走行・停止するとき、思わぬ転倒などにより頭部にケガを負わせる事故が起こっています。子どもには頭のサイズに合った自転車専用ヘルメットを正しく着用させましょう。また、子どもを乗せるシートは安全なものを正しく設置しましょう。

3 入浴中は子どもから目を離さずに、 入浴後は浴槽の水を抜き浴室に鍵をかけましょう。

着替えを取りに行ったり、電話に出たり、あるいはお母さんがシャンプーをしている間など、ちょっと目を離れたときに子どもが浴槽によじ登って溺れる事故が起こっています。短時間でも子どもを浴室において外に出ないようにしましょう。浴槽のふたは入浴する直前にはずし、入浴中は子どもから目を離さないようにしましょう。入浴後は浴槽のお湯を抜いておきましょう。また、浴室のドアは開け放しにせず、子どもが一人で浴室に入れられないようドアを閉めて鍵をかけておきましょう。



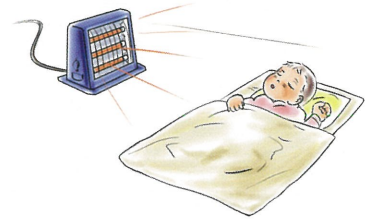
4 ポット、炊飯器、コーヒーメーカー、ライター、アイロンなどは、 子どもの手の届かない場所に置き、 台所の入口にはガード柵を設置しましょう。

行動が活発になり好奇心も旺盛になるこの時期は、大人のすることを真似しようとして思わぬ事故が起こります。火傷を防ぐため、熱を帯びる家電製品や熱い飲食物は子どもの手の届かない場所に置き、火気のある台所にはできればガード柵を設置しましょう。



5 暖房器具にはガードを設置しましょう。

ヒーターの吹き出し口に手を近づける、転んでストーブに触れるなど、冬は暖房器具によるやけどが多くなります。子どもの皮膚はたいへん弱く、少しの熱でも重篤なやけどになる危険があります。熱源が直接触れないよう、ガードをして使用しましょう。ストーブの上にはやかんなどを置かないようにしましょう。



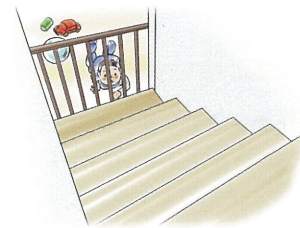
6 ベランダや窓際に踏み台になるものを置かないようにしましょう。

子どもは窓の外の景色に興味があり、窓やベランダから身を乗り出すことがあります。窓やベランダからの転落は命にかかわるような大事故につながります。ベランダには束ねた新聞、ピールケース、クーラーボックス、高さのある植木鉢など、踏み台になるようなものを置かないことです。子どもがのぞき込める窓には安全柵をつけ、窓際にはベッドやソファ、椅子、テーブルなど子どもの這い上がれるようなものを置かないようにしましょう。



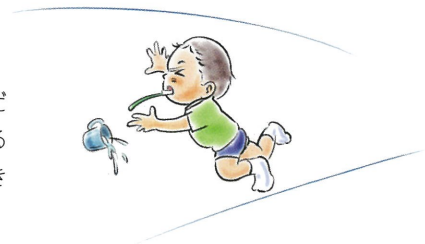
7 階段の上下にはガード柵を取り付け、昇降の際は常に大人が下にいるようにしましょう。

階段では、子どもが転んでも支えられるよう、大人は子どもの下側を歩きましょう。最初は後ろ向きにハイハイしながら降りるようにさせ、歩いて降りられるようになったら手を取るが、子どもの下または横を歩きましょう。また、子どもが一人で階段を昇り降りしないよう、階段の上下階には柵をつけて閉め忘れないようにしましょう。



8 子どもがはしやフォーク、歯ブラシなどをくわえて歩くことのないようにしましょう。

長いものを口にくわえて歩いたり、走り回ったりしていると、壁にぶつかったり転んだりしたときに、口の中を切ったり、のどを突いたりする危険があります。手に持っているときでも、転ぶと刺さることがあります。はし、フォーク、歯ブラシなどを使っているときは目を離さないように、また、これらをくわえて走り回ることのないようにしましょう。



9 ビーズなど細かいおもちゃ、タバコ、薬品、洗剤、化粧品、電池、硬貨、指輪、はさみ、包丁などは子どもの手の届かない場所に保管しましょう。

子どもは大人の真似をしたがり、大人の持ち物が気になるものです。硬貨、化粧品、電池、薬などは誤飲事故につながります。また、子どもはビーズや小さな玉、ブロックなどを鼻や耳に詰めて遊ぶことがあります。鋭利なものも手を切るケガにつながります。細かいおもちゃ、タバコ、薬品、洗剤、化粧品、電池、硬貨、指輪、はさみ、包丁などは子どもの手の届かない場所に保管しましょう。



10 飴玉、ナッツ類、こんにゃく入りゼリー、餅などは食べさせないようにしましょう。

子どもは何気なく床やテーブルの上にある小物をつまんで口に入れてしまいます。子どもの口の大きさは最大32mmで、これより小さなものは飲み込んでしまいます。また、おもちゃが口にすっぽり入ってしまったら、食べ物が飲み込めずのどにつかえたりします。子どもののどは未発達で気管にものが入りやすく、ピーナッツや枝豆などの豆類は子どもの気管をふさぐ大きさであるため、気管に入っているのに気がつかないと肺の炎症を起こしてしまいます。豆類は3歳を過ぎるまでは与えないようにしましょう。また、食べ物の大きさや硬さ、口に入れる量を考えて食べさせるようにしましょう。

